

## 学力向上プロジェクト授業改善 平成17年度実践事例

### 種 目 サッカー

#### 事例の解説

##### 1 研究の趣旨

1993年にJリーグが発足し、サッカーの日本代表チームがオリンピックやワールドカップに出場するなど、我が国ではサッカーに対する国民の関心が高まっている。それに伴い、体育の授業で学習するサッカーについても、生徒の技能が向上し、試合内容も進歩しつつある。運動種目についての知識・理解を深めることは、より高いレベルでの楽しさや充実感につながり、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実践へと発展する。

本事例では、評価規準を明示し学習活動を分かりやすく示すとともに、生徒がもっている知識を最大限に生かし、味方の特徴や相手チームを分析して戦術やシステムを工夫するなど、サッカーを科学的に理解、実践することで、より一層の楽しさと充実感を味わうことができる授業を目指した。

##### 2 研究の進め方

サッカーでは豊富な運動量により活動欲求を満たすとともに、個人の技能や知識を生かしてチームの戦術を工夫するなど「思考・判断」の能力を発揮することで、より高次の充実感や達成感を味わうことができる。また、審判をはじめ用具の準備、片付けなどスポーツを「支える」能力を高めることは、スポーツライフを豊かなものにするための重要な要素である。

今回の取組では、これらの点を踏まえ、生徒が主体的に取り組むことができるよう以下の手順で学習活動を支援した。

- (1) 観点別評価規準及び単元計画等の作成
- (2) チームノートの作成
- (3) 審判法・チーム戦術の講義(サッカーに関する知識・理解の向上)
- (4) チーム分析と作戦・戦術の立案、システムの選択<sup>\*1</sup>支援(M-T-Mメソッド<sup>\*2</sup>の活用)
- (5) チームノートの確認
- (6) 自己評価表の確認

##### 3 研究の成果

- (1) 観点別評価規準により到達目標を事前に示したことで、生徒が主体的に活動できるようになった。また、教師側も生徒に対する行動観察や助言が行いやすくなった。
- (2) 試合中の技能の発揮だけでなく、積極的な意見交換、準備、片付け、審判などスポーツを「支える」ための主体的な行動が多く見られた。
- (3) 分析や作戦・戦術の立案、システムの選択など、科学的理解や実践方法を学習することができた。
- (4) 作戦・戦術の共通理解が深まったことにより、ゲーム中のコミュニケーションが格段に増え、効果的な指示やプレーを誉め称える声が多く聞かれた。
- (5) 当初は活動欲求が先行し、ミーティングを軽視する傾向にあったが、単元が進むにつれてミーティング時間をオーバーするほど意見交換が活発に行われるようになり、作戦・戦術の立案、ポジション選択の重要性を理解することができた。
- (6) システムや戦術の科学的な理解と実践により、一層の充実感と楽しさを味わうことができた。

##### 4 今後の課題

本事例では、個人技能に優れ、チームの中心となるリーダーが存在する集団で実施したため、全体を通じて円滑に授業を展開することができたが、集団の特性に合わせた評価規準の作成や到達目標の設定が重要であると感じた。さらに、選択制授業の特性から、今回初めてサッカーを選択した生徒がいたように、経験の差を考慮したグループ別の技能指導や個に応じた課題設定などについても検討したい。

## 【補足】

### ※1 システムの選択

システムとは … きわめて多数の構成要素から成る集合体で、各部分が有機的に連繋して、全体として一つの目的を持った仕事をするもの。(新明解 国語辞典 三省堂)

システムを選択する際、最も重要なことはチームの特長を最大限生かし、かつ相手チームとの力関係を分析した上で、どのような戦い方をするかということである。この戦い方を実際のポジション配置に反映したものがシステムであると考ええる。

例えば、現在一般的に用いられるシステムとして、4-4-2と3-5-2が挙げられる。両者の大きな違いはDFとMFの数にある。相手の2トップに対して、4人で守るのか、3人で守って中盤を1人増やすのかということである。一概に4-4-2、3-5-2といってもDF方法、中盤の構成など様々なタイプが考えられるし、どのシステムにもメリットとデメリットが存在し、機能させるためには実に多くの要素が必要となる。

そこで授業では、まずチームの特徴を生かして「どう攻めるか」「どう守るか」を具体的に考え、それを実践するためにどのポジションの人数を増やすのかを選択するよう指導した。

### ※2 M-T-Mメソッド

M-T-Mとは…マッチートレーニングマッチ(ベターマッチ)のこと。

M：ゲーム形式の練習から入る。途中でゲームを止め、その場面の問題点、課題を見つけ、修正点を説明する。

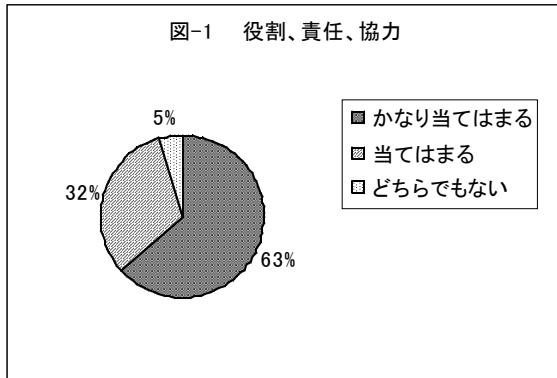
T：その問題点・課題を克服するための練習を行う。

M：再度、ゲームを行い、実際に行ってみる。

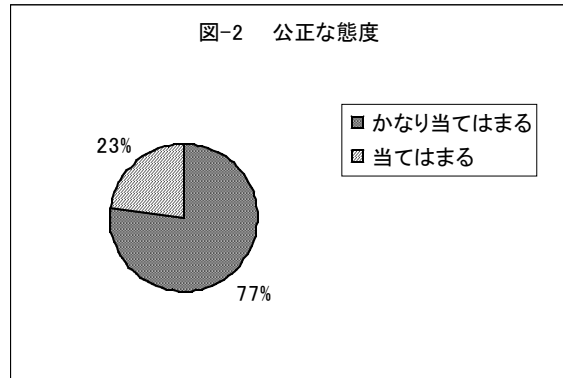
これは1日のトレーニング形式だけに当てはまるものではなく、例えば1週間のスパンでは週末にゲームを行い、1週間のトレーニングを経て、翌週末にゲームを行うと考えることができる。

体育授業では、これを連続的に考えて、ゲームを次時のチーム練習に生かし、その成果をゲームでトライする。またそこから出た課題を練習に生かしてゲームでトライすることでチーム力の向上を図ることができる。

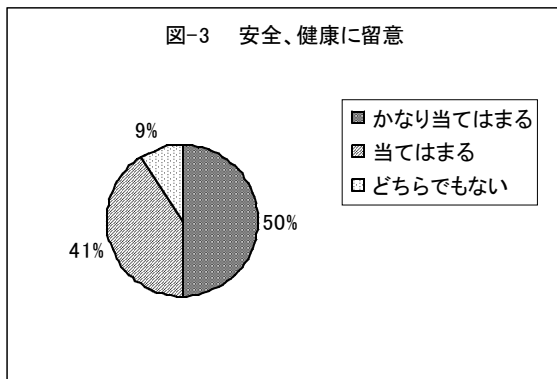
## 自己評価の結果



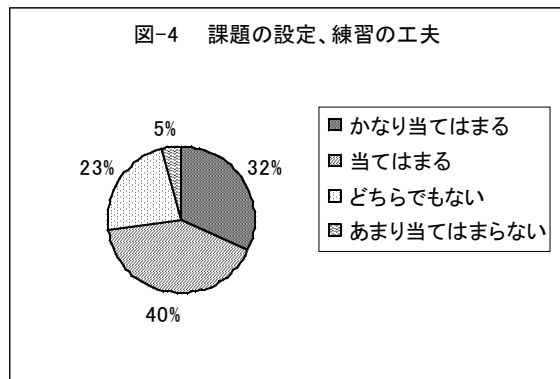
ゲームにおける各自の役割を自覚して行動し責任を果たすとともに、仲間と協力しながら楽しんでゲームができた。



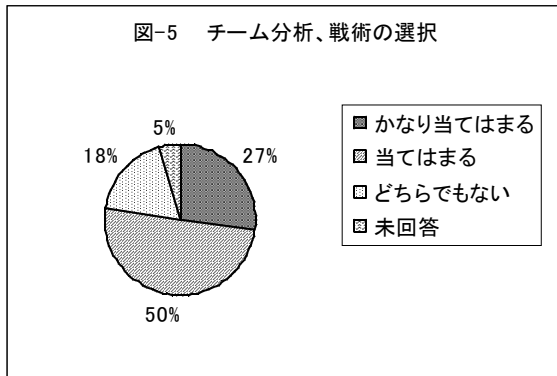
勝敗やプレーに対して公正な態度をとることができた。



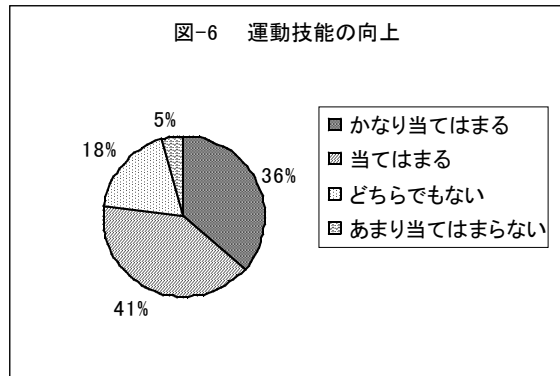
活動場所や用具、仲間の安全・健康に留意して練習やゲームに取り組むことができた。



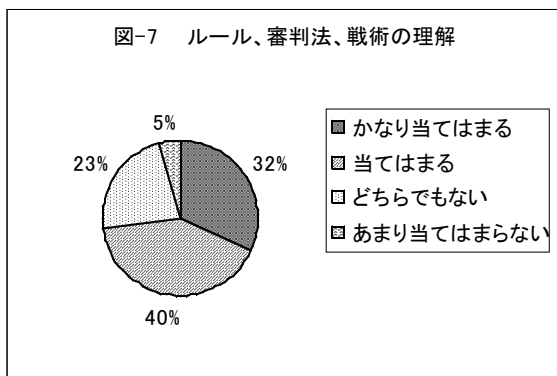
自分やチームの能力に応じた課題を設定するとともに、課題に対して適切な練習方法を工夫することができた。



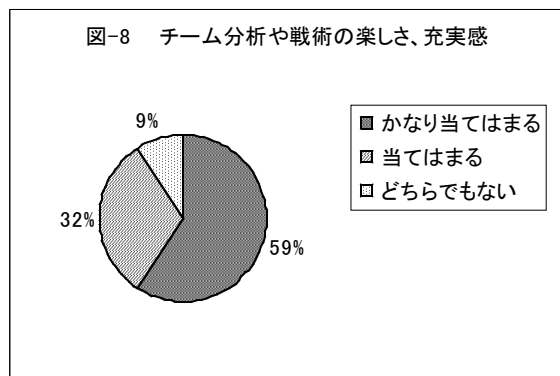
自チームや相手チームを分析し、適切な戦術を選択してゲームができた。



個人的技能やチームの戦術に応じた技能を高め、ゲームに生かすことができた。



サッカーのルールや審判法、戦術について理解し、説明することができる。



チーム分析を行い、作戦やシステムを工夫することで、より充実感や楽しさを味わうことができた。

